

## 1 はじめに (§21.1)

### 復習

- 伝統的に、時制は状況を時間軸上に位置付けるものとされてきた。
- Klein (1994) は、時制は、状況ではなく、話者が断定 (assertion) をする時間を時間軸上に位置付けるものだと主張した。
- そのような時間をトピック時間 (Topic Time) という。
- 時制と相は、トピック時間 (TT; Topic Time)、状況時間 (TSit; situation time) と発話時点 (TU; utterance time) により、客観的に定義できる。

- (1) a. 時制は、TT と TU の時間的關係を示す。  
 b. 相は、TT と TSit の時間的關係を示す。  
 ※ TT と TSit は幅のある区間 (interval)、TU は幅のない点。

## 2 時制はトピック時間と発話時点の關係 (§21.2)

- 時制は文法的形態素であり、すべての言語に時制があるわけではない。
- 時制の表す時間關係は、名詞句（「去年」、「その週」、「次の日」、「東京オリンピック開催中」）、後置詞句（「翌朝に」、「それから」）、副詞句（「やがて」、「もうすぐ」、「さっき」）など、時制以外の要素によって表すこともできる。
- 時制論理 (tense logic) では、基本的命題に追加する論理演算子を設定する (Prior 1957, 1967)。

- (2) a.  $PAST(p)$  が TU において真であるのは、 $\exists t[t < TU \wedge p$  が時点  $t$  において真] の場合、そしてその場合だけである。  
 ( $PAST(p)$  が発話時点において真であるのは、発話時点よりも前の時点に  $p$  が真であった場合、そしてその場合だけである。)
- b.  $FUTURE(p)$  が TU において真であるのは、 $\exists t[TU < t \wedge p$  が時点  $t$  において真] の場合、そしてその場合だけである。  
 ( $FUTURE(p)$  が発話時点において真であるのは、発話時点よりも後の時点に  $p$  が真であった場合、そしてその場合だけである。)

- Partee (1973) は、(3) のような例に基づき、この分析が単純過ぎることを指摘した。
- (4b) のどちらの解釈も、(3) の実際の解釈とは異なる。

- (3) [車で家を出発してから、妻が夫に]

I didn't turn off the stove.

「コンロの火を消さなかった。」

- (4) a. I turned off the stove.  
 $\exists t[t < TU \wedge \text{TURN\_OFF}(\text{話し手}, \text{stove}) \text{ が時点 } t \text{ において真}]$
- b. I didn't turn off the stove.
- (i)  $\neg \exists t[t < TU \wedge \text{TURN\_OFF}(\text{話し手}, \text{stove}) \text{ が時点 } t \text{ において真}]$   
 → 話し手がコンロの火を消した時点が過去（＝人生）に一度もない。
- (ii)  $\exists t[t < TU \wedge \neg \text{TURN\_OFF}(\text{話し手}, \text{stove}) \text{ が時点 } t \text{ において真}]$   
 → 話し手がコンロの火を消さなかった時点が過去（＝人生）に少なくとも一度ある。

- Klein の時制の定義 (1) では、時制は状況（＝ $p$ ）でなく、トピック時間（＝家を出発する直前）に言及する。
- 従って、(3) の文は話し手の人生すべてについての文ではなくなり、正しい解釈が得られる。

- (5) a. I turned off the stove.  
 $TT < TU \wedge \text{TURN\_OFF}(\text{話者}, \text{stove}) \text{ がトピック時間 } TT \text{ において真}$
- b. I didn't turn off the stove.
- (i)  $\neg TT < TU \wedge \text{TURN\_OFF}(\text{話者}, \text{stove}) \text{ がトピック時間 } TT \text{ において真}$   
 → 話し手がコンロの火を消した時点（＝家を出発する直前）は発話時点よりも前にはない。
- (ii)  $TT < TU \wedge \neg \text{TURN\_OFF}(\text{話者}, \text{stove}) \text{ がトピック時間 } TT \text{ において真}$   
 → 話し手がコンロの火を消さなかった時点が（＝家を出発する直前）発話時点よりも前にある。

- Klein の枠組みは、Reichenbach (1947) を元にしてている。
- Reichenbach は、3つの時点を定義した。
  1. 発話時点 (speech time) = Klein の発話時点 TU
  2. 事象時点 (event time) = Klein の状況時間 TSit
  3. 参照時点 (reference time)  $\approx$  Klein のトピック時間
- 時制は発話時点との関係により決定するので、直示表現である。

### 3 事例研究：英語の単純現在時制 (§21.3)

- (6)  $TU \subset TT$
- (7) 発話時点に起こっている事柄は表せない
- a. \*I write this paper right now.
- b. I am writing this paper right now.

- (8) 未来の事柄を表すことができる  
My brother *leaves* for China next month.
- (9) 過去の事柄を表すことができる（「歴史的現在 (historical present)」）  
I'm eating dinner last night when the phone *rings*. I *answer* it but there's no response.  
Then I *hear* this buzzing sound.
- (10) 時間を超越した事柄を表すことができる  
The area of a circle *equals* pi times the square of its radius.
- 英語の単純現在時制が状態述語としか共起しないという選択制限を持つと考えることにより、これらの事実を（部分的に）説明できる (Michaelis 2006)。
    - 出来事述語は発話時点で真であるならば、進行形にしなければならない。(7)
    - 単純現在時制の出来事述語は、習慣の解釈を受ける(11)。これは、出来事述語が**強制 (coercion)**により、状態述語としての解釈を受けたものと分析できる。
    - 時間を超越した状況を表す総称文(10)も同様に分析できる。
  - Comrie (1976:47)：未来を表す単純現在時制(8)は予定に関するものでなければならない。(12)
- (11) Mary *plays* tennis.  
cf. Mary *is playing* tennis.
- (12) a. The train *departs* at five o'clock tomorrow morning.  
b. ?#It *rains* tomorrow.
- このことから、未来を表す単純現在時制は、実は、未来のことではなく発話時点における予定を表していると言えるかもしれない。
  - 「歴史的現在」の用法は、語り (narrative) のジャンルに特有。直示の参照点が発話時点から、語りの世界に移っていると考えられる。

#### 4 相対時制 (§21.4)

**絶対時制 (absolute tense)** トピック時間と発話時点との関係。

**相対時制 (relative tense)** トピック時間と文脈により決定される参照時点との関係。そのような参照時点を**視点時点 (perspective time; PT)**と呼ぶことにする。

- (13) a. 絶対時制の過去  
TT < TU
- b. 相対時制の過去  
TT < PT

- (14) ブラジルポルトガル語 (Comrie 1985:31)  
 Quando você chegar, eu já saí.  
 when 2SG arrive.FUT.SBJV 1SG already leave.PAST  
 「あなたが着く頃には、私はもう去っています。」 (TT < PT, TT ≠ TU)
- (15) TT < PT, TT ≠ TU  
 a. \*あなたが着く頃には、私はもう去っていました。  
 b. \*When you arrive, I already left.
- (16) —TU—[TT /TSit //]—[PT ]—  
 私が去る あなたが着く  
 a. 相対時制の過去 → TT < PT  
 b. 完結相 → TSit ⊆ TT  
 c. 語用論的推論 → TU < TT
- 相対時制は、多くの場合、従属節で観察される。
  - 主節の時制が PT を提供する。
- (17) 日本語  
 a. 健は [シンガポールはマレーシアの一部だ] と信じていた。  
 cf. 健は [シンガポールはマレーシアの一部だった] と信じていた。  
 b. この列車は [特急列車が通過した後]、発車します。  
 cf. \*この列車は [特急列車が通過する後]、発車します。
- (18) インバブラ・ケチュア語（ペルー、Cole 1982: 143）  
 a. [Marya Agatu-pi kawsa-**j**]-ta kri-rka-ni.  
 Mary Agato-in live-PRES-ACC believe-PAST-1SUBJ  
 ‘I believed that Mary was living (at that time) in Agato.’  
 b. [Marya Agatu-pi kawsa-**shka**]-ta kri-rka-ni.  
 Mary Agato-in live-PAST-ACC believe-PAST-1SUBJ  
 ‘I believed that Mary had lived (at some previous time) in Agato.’  
 c. [Marya Agatu-pi kawsa-**na**]-ta kri-rka-ni.  
 Mary Agato-in live-FUT-ACC believe-PAST-1SUBJ  
 ‘I believed that Mary would (some day) live in Agato.’  
 —従属節の未来形が過去の状況である可能性がある。

#### 4.1 複雑（「絶対-相対」）時制 (§21.4.1)

- PT に対する TT の位置（相対時制）に加え、TU に対する PT の位置も文法的に指定する時制もある。

- そのような時制を**複雑時制** (complex tense) という。
- 通言語的に、複雑時制は形態的に複雑、つまり2つ以上の形態素の組み合わせであることが多い (Comrie 1985)。

## (19) 過去の過去

- I reached the base camp Tuesday afternoon; Sam *had arrived* the previous evening.
- Einstein was awarded the Nobel prize in 1922, for a paper that he *had published* in 1905.

## (20) 未来の過去

I expect to reach the base camp on Tuesday afternoon; Sam *will have arrived* the previous evening.

## (21) 過去の未来

Einstein published four ground-breaking papers in 1905, including the one for which he *would win* the Nobel prize in 1922.

## 4.2 間接話法における時制の一致 (§21.4.2)

- 英語：時制の一致 (sequence of tenses) が起こる。絶対時制。発話時点が参照時点。
- 日本語、ロシア語：時制の一致が起こる。相対時制。主節のトピック時間が参照時点。

- Yesterday I asked John what he was doing, and he said that he *was/\*is studying*.
- If I ask him the same thing tomorrow, he will say that he *is/\*will be studying*.

## (23) ロシア語

Džon skazal, čto on ujdet na sledujuščij den.

John said COMP 3SG will.leave on next day

「ジョンは次の日に去るつもり {だ/\*だった} と言った。」

## 5 時間的遠さの標識（「計量的時制」） (§21.5)

- 過去・非過去、未来・非未来のような二分類の時制体系が最も一般的（例：日本語）。
- 現在・過去・未来のような三分類の時制体系は実はあまりない。
- バントゥ諸語など、「直近」、「近過去」、「遠過去」のような細かな区別が文法的に表示される時制体系もある。

## (24) ベンバ語（バントゥ）(Chung and Timberlake 1985:208)

- a. Remote past  
ba-àlí-bomb-*ele*  
'they worked (before yesterday)'
- b. Removed past  
ba-àlíí-bomba  
'they worked (yesterday)'
- c. Near past  
ba-àcí-bomba  
'they worked (today)'
- d. Immediate past  
ba-á-bomba  
'they worked (within the last 3 hours)'
- e. Immediate future  
ba-á-láá-bomba  
'they'll work (within the next 3 hours)'
- f. Near future  
ba-léé-bomba  
'they'll work (later today)'
- g. Removed future  
ba-kà-bomba  
'they'll work (tomorrow)'
- h. Remote future  
ba-ká -bomba  
'they'll work (after tomorrow)'

- Cable (2013); LaCross (2016) : 少なくともいくつかの言語では、これらの標識はトピック時間ではなく、状況時間に言及する。
- そうだとすると、これらの標識は英語や日本語の時制と同等に扱うことは適切ではない。
- トピック時間と状況時間の双方の発話時点に対する時間的關係を表す概念として、**時間的遠さ** (temporal remoteness) という用語が用いられる。

## 参考文献

- Cable, Seth. 2013. Beyond the past, present and future: Towards the semantics of 'graded tense' in Gĩkũyũ. *Natural Language Semantics* 21:219–276.
- Chung, Sandra, and Alan Timberlake. 1985. Tense, aspect, and mood. In *Language Typology*

- and Syntactic Description Volume III Grammatical Categories and the Lexicon*, ed. Timothy Shopen, 202–258. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cole, Peter. 1982. *Imbabura Quechua*. Number 5 in *Lingua Descriptive Studies*. Amsterdam: North-Holland.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press. (山田小枝 (訳) 1988 『アスペクト』 むぎ書房.)
- Comrie, Bernard. 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press. (久保修三 (訳) 2014 『テンス』 開拓社.)
- Klein, Wolfgang. 1994. *Time in Language*. London: Routledge.
- LaCross, Lisa. 2016. Past temporal remoteness in Kimanianga. Paper presented at the 16th Texas Linguistic Society Conference.
- Michaelis, Laura A. 2006. Time and tense. In *The Handbook of English Linguistics*, ed. B. Aarts and A. MacMahon, 220–234. Oxford: Blackwell.
- Partee, Barbara. 1973. Some structural analogies between tenses and pronouns in English. *Journal of Philosophy* 70:601–609.
- Prior, A. N. 1957. *Time and Modality*. Oxford: Oxford University Press.
- Prior, Arthur N. 1967. *Past, Present and Future*. Oxford: Oxford University Press.
- Reichenbach, Hans. 1947. The tenses of verbs. In *Elements of Symbolic Logic*, ed. Maria Reichenbach, 287–298. New York: Macmillan.